

ワクチン情報の説明

MMRV (麻疹、おたふくかぜ、風疹、および水痘)
ワクチン: 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。www.immunize.org/visを見てください。

1 ワクチン接種を受ける理由は？

麻疹、おたふくかぜ、風疹、水痘はウイルス性の疾患で、重大な結果を引き起こす場合があります。ワクチンが発見される前、これらの病気は米国では、特に子供で大変多く見られていました。世界中の多くの地域で依然として多くみられています。

麻疹

- 麻疹ウイルスにより起こり得る症状には、発熱、咳、鼻水、目が赤くなる、涙が出る、などがあり、続いて多くの場合、全身に発疹が起こります。
- 麻疹は耳の感染症、下痢、肺の感染症（肺炎）を引き起こすことがあります。稀ですが麻疹により脳の障害や死亡に至る場合があります。

おたふくかぜ

- おたふくかぜウイルスにより起こり得る症状には、頭痛、筋肉痛、倦怠感、食欲不振、耳の下の唾液腺の腫れと触った時の痛み（片側または両側）などがあります。
- おたふくかぜは聴力障害、脳および/または脊髄の被膜の腫れ（脳炎や髄膜炎）、睾丸や卵巣の痛みを伴う腫れ、非常に稀ですが死亡に至る場合があります。

風疹（三日ばしかとも呼ばれます）

- 風疹ウイルスは発熱、のどの痛み、発疹、頭痛、眼刺激を引き起こします。
- 風疹は10代前半、および成人女性で関節炎を引き起こします。
- 女性が妊娠中風疹にかかった場合には、流産が起こったり、赤ちゃんが重大な先天異常を持って生まれる可能性があります。

水痘（水疱瘡とも呼ばれることがあります）

- 水疱瘡は、熱、倦怠感、食欲不振、頭痛とともに、痒みのある発疹を引き起こし、通常約1週間続きます。
- 水疱瘡は皮膚の感染症、肺の感染症（肺炎）、血管の炎症、脳および/または脊髄の被膜の腫れ（脳炎や髄膜炎）、血液・骨・関節の感染症を引き起こします。稀には水痘により死に至る場合もあります。
- 水疱瘡にかかった方々の中には、何年か後に、帯状疱疹（帯状ヘルペス）と呼ばれる痛みを伴う発疹を発症する方もいらっしゃいます。

これらの病気は人から人へとたやすく伝染する可能性があります。麻疹では人との接触さえ必要としません。麻疹にかかった人が2時間以内に立ち去った部屋に入ることによって麻疹にかかる場合があります。

米国では、ワクチンの発見と高いワクチン接種率によりこれらの病気はあまり見られなくなりました。

2 MMRVワクチン

MMRVワクチンは12カ月～12歳の子供に行われる場合があります。通常2回の接種をお勧めします：

- 初回接種：月齢12～15カ月
- 2回目の接種：年齢4～6歳

MMRV VIS – Japanese (2/12/18)

おたふくかぜが流行した場合には、3回目のMMRVの接種が推奨される可能性があります。

他のワクチンと同時にMMRVワクチンを摂取することについてのリスクはわかっていません。

MMRVの代わりに、12カ月～12歳の一部の子供では、別々に2回の注射を行う場合があります。MMR（麻疹、おたふくかぜ、風疹）と水疱瘡（水痘）です。MMRVは13歳以上の方には許可されていません。MMRと水疱瘡ワクチンに関するワクチン情報の説明は別々に用意されています。担当の医療従事者が詳しい情報を教えることができます。

3 このワクチンを受けるべきでない方もいます

あなたのお子さんが以下のような場合、ワクチンを行う医療従事者にそれをお伝えしてください。

- 重度の、命に関わるアレルギーを持っている。MMRVワクチンを1回投与した後、命に関わるアレルギー反応が起こったことがある方、またはこのワクチンの成分に対し重度のアレルギーをお持ちの方には、ワクチン接種を受けないことをお勧めする場合があります。ワクチンの成分についてお知りになりたい場合には、担当の医療従事者にお尋ねください。
- 病気（がんやHIV/AIDSなど）または医学的な治療（放射線療法、免疫療法、ステロイド、化学療法）により免疫系が弱っている方。
- 痙攣の既往歴がある、または両親、兄弟（姉妹）に痙攣の既往歴がある。
- 免疫系に問題があった履歴を持つ両親、ご兄弟（姉妹）をお持ちの方。
- あざや出血が簡単に起こる症状が起こったことがある方。
- 妊娠しているまたは妊娠している可能性がある。MMRVワクチンの接種は妊娠中に行うべきではありません。
- サリチル酸塩（アスピリンなど）を服用している。水痘を含むワクチンの接種を受けた方は、6週間のあいだサリチル酸塩の使用を避ける必要があります。
- 最近輸血を受けた、またはほかの血液製剤を受けたことがある方。MMRVワクチンの接種をお子さんに受けてもらうことを3カ月以上遅らせるようアドバイスされる場合があります。
- 結核の方。
- 過去4週間以内に他のワクチンを受けた。生ワクチンを近いうちに受けることもうまくいかない場合があります。



U.S. Department of Health and Human Services
Centers for Disease Control and Prevention

- ・ **体調がすぐれない。**お子さんが風邪のような軽い病気にかかっている場合は当日ワクチンを受けられる可能性があります。お子さんが中程度または重い病気にかかっている場合は、おそらく回復するまでお待ちいただく必要があります。担当医師がアドバイスいたします。

4 ワクチンの反応のリスク

ワクチンを始めとしていかなる医薬品によっても反応が起こる可能性はあります。これらは通常軽度で、自然に治りますが、重篤な反応となる可能性もあります。

MMRV ワクチン接種を受けることは、麻疹、おたふくかぜ、風疹、水疱瘡のような病気に罹るよりもずっと安全です。MMRV ワクチン接種を受けるほとんどのお子さんにはそれによる問題はありませぬ。

MMRV ワクチン接種後、お子さんが経験する可能性があるのは：

軽度の症状：

- ・ 注射による腕の痛み
- ・ 発熱
- ・ 注射部位の発赤または発疹
- ・ 頬または首の腺の腫れ

これらの症状が起こる場合、通常注射の2週間以内に始まります。それらは2回目の接種後にはあまり起こりません。

中程度の症状：

- ・ 痙攣（びくびくする、毛が逆立つ）は発熱に伴ってよく起こります
 - 一連の接種のうち初回の接種を行った場合、これらの痙攣のリスクは、MMRV と水疱瘡ワクチン接種を別々に行った後よりも、起こるリスクが高いです。担当医師がお子さんに適切なワクチンについてアドバイスを行うことができます。
- ・ 一時的な血小板数低下により異常な出血やあざが起こる場合があります
- ・ 肺の感染症（肺炎）や脳および脊髄の被膜の感染症（脳炎や髄膜炎）
- ・ 全身の発疹

ワクチン接種後お子さんに発疹が現れた場合、ワクチンの水痘成分に関連している可能性があります。MMRV ワクチン接種後発疹が現れたお子さんは、抗体のない方に水痘ワクチンウィルスを伝染する可能性があります。非常に稀にこのような現象が起こったとしても、発疹がなくなるまで、そのお子さんを弱った免疫系の方々やワクチン未接種の幼児から遠ざけておく必要があります。詳しくは、担当の医療従事者にご相談ください。

MMR ワクチン接種後の**重大な症状**は滅多に報告されていません。MMRV 後もほとんど起こらないとみられます。重大な症状とは、

- ・ 聴力障害
- ・ 長期にわたる痙攣、昏睡、意識低下
- ・ 脳障害

このワクチン接種の後起こる可能性があること：

- ・ ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。約15分間、椅子にお座りになるか横になることで失神し転倒により怪我をするのを防ぐことができます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。
- ・ 注射の後通常の痛み以上に重い肩の痛みが起こったり、長く続く方もいます。このようなことが起こることはめったにありません。
- ・ どのような医薬品でも重いアレルギー反応が起こる場合があります。ワクチン接種に対するこのような反応はおおよそ百万回の投与に1回と見積もられています。また反応が起こるとしたら、ワクチン接種後数分から数時間以内に起こる可能性があります。

Translation provided by the Immunization Action Coalition

あらゆる医薬品による場合と同じく、ワクチン接種により重篤な障害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

ワクチン接種の安全性は常にモニターされています。詳しい情報につきましては、www.cdc.gov/vaccinesafety/ をご覧ください。

5 重度の問題が起きたら？

何を調べるべきでしょうか？

- ・ あなたが心配している事柄についてお調べください。例えば、重いアレルギー反応、高熱、普通ではないふるまいなどの症状などです。

重いアレルギー反応の症状には、蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感などがあります。これらは通常ワクチンを摂取してから数分から数時間で始まります。

どうしたらいいのでしょうか？

- ・ **重いアレルギー反応**またはその他の緊急事態で待つことができないとお考えの場合は、9-1-1 にお電話し、お近くの病院にかかってください。そうでなければ、担当の医療従事者にお電話ください。

後ほど、その反応を Vaccine Adverse Event Reporting System (VAERS) (ワクチン有害事象報告システム) に報告する必要があります。担当の医師はこの報告をファイルする必要があります。またはあなたご自身が VAERS ウェブサイト www.vaers.hhs.gov を通し、または 1-800-822-7967 にお電話し、報告することもできます。

VAERS は医学的なアドバイスを提供しません。

6 全米予防接種傷害補償プログラム

National Vaccine Injury Compensation Program (VICP) は連邦プログラムであり、特定のワクチン接種により障害を受けた可能性のある方々に補償するため設立されました。

ワクチン接種により障害を受けたかもしれないと思われる方は、1-800-338-2382 にお電話いただくか、VICP ウェブサイト www.hrsa.gov/vaccinecompensation を参照になり、このプログラムについてと申請の提出方法についてご覧ください。補償を受けるための申請を提出するには期限があります。

7 詳しい情報を知るには？

- ・ 担当の医療従事者にお尋ねください。医療従事者はワクチンの添付文書をあなたにお渡しするか、その他の情報源をお勧めする場合があります。
- ・ 現地または州の健康管理部門にお電話ください。
- ・ Centers for Disease Control and Prevention (CDC) (疾病管理予防センター) の連絡先：
 - 電話 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO) または
 - CDC のウェブサイト www.cdc.gov/vaccines をご覧ください

Vaccine Information Statement

MMRV Vaccine

2/12/2018

Japanese

Office use only



42 U.S.C. § 300aa-26